

やんばる地域の国立公園を考えるシンポジウムを開催します

環境省がとりまとめた「やんばる地域の国立公園に関する基本的な考え方」を紹介するとともに、やんばる地域が、将来自然資源を活用してどのような姿を目指していくのかを考えることを目的に、以下のとおりシンポジウムを開催します。

たくさんのご来場をお待ちしています。なお、事前の申し込みは不要です。



日時：平成20年3月29日（土） 14:00～17:00

場所：大宜味村農村環境改善センター（喜如嘉）

主催：環境省那覇自然環境事務所、沖縄県、国頭村、大宜味村、東村

内容（予定）：

第1部 話題提供

- ・「やんばる地域の国立公園に関する基本的な考え方」について（環境省）
- ・観光のトレンドとやんばる地域の資源について
（玉沖仁美：（株）リクルートじゃらんリサーチセンター客員研究員、検討会委員）

第2部 「地域が考えるやんばるの将来の姿」

(1) 迎高生が見た・調べたやんばるの自然～環境モニタリングの取組み～

(2) パネルディスカッション

パネリスト

桜井国俊（コーディネーター）

（沖縄大学学長、検討会座長）

玉沖仁美

久高将和（写真家）

山川安雄（NPO法人国頭ツーリズム協会代表理事）

米須邦雄（日本ウミガメ協議会会員、大宜味村在住）

港川實登（東村グリーンツーリズム研究会会長）

ニュースレターに関する お問い合わせはこちらへ

環境省やんばる野生生物保護センター

〒905-1413

沖縄県国頭郡国頭村字比地 263-1

TEL:0980-50-1025

FAX:0980-50-1026

e-mail:RO-YANBARU@env.go.jp

やんばるニュースレター

発行：環境省 やんばる野生生物保護センター

No. 3

Yanbaru Newsletter

2008年3月
発行

やんばる地域の国立公園を考える座談会を 開催しました

環境省では、やんばる地域の重要な自然環境を適切に保全し、地域の振興も図られるよう、やんばる地域を国立公園とすることを検討しています。ニュースレターでは、その検討状況についてご紹介していきます。



座談会の様子(国頭村)

今年度、環境省では、来年度以降具体的な国立公園の区域や計画を検討していくための指針となる「やんばる地域の国立公園に関する基本的な考え方」（以下、基本的な考え方）をとりまとめる予定です。

これをとりまとめるにあたって、地域住民の方々の意見を直接お聞きするため、各村において座談会を開催しました。

大宜味村：2月1日（金） 道の駅おおぎみ 2階会議室／参加人数22名

東 村：2月4日（月） 東村役場 大会議室／参加人数13名

国頭村：2月5日（火） 道の駅ゆいゆい国頭 多目的ホール／参加人数28名

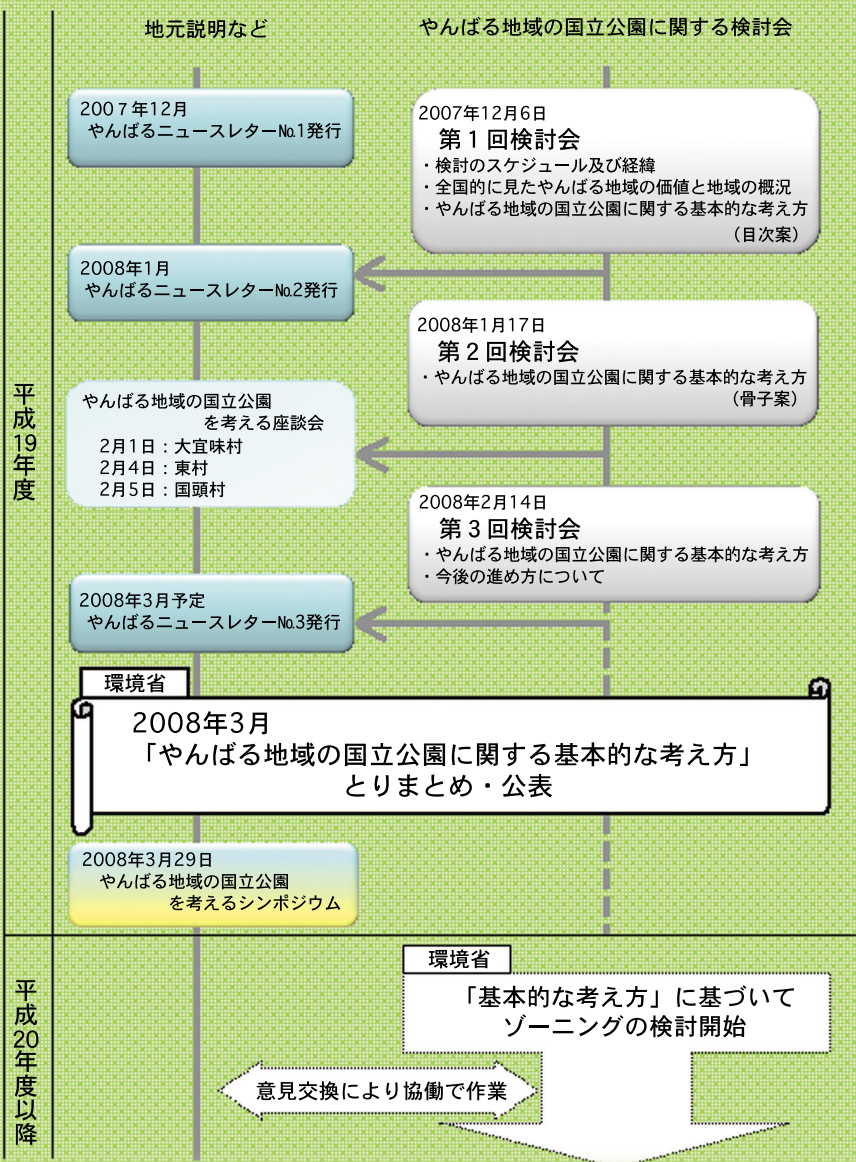
座談会では、はじめに環境省より、これまでの検討の状況、国立公園制度の仕組み、基本的な考え方などについて説明し、その後、意見交換を行いました。

やんばる地域を国立公園に指定することについて、自然保護、地域の振興といった面から期待する意見がある一方、まだ具体的な国立公園のイメージがない中で、地域住民に丁寧な説明を行う合意形成を得ながら進めるようにしてほしいとの意見が多く寄せられました。

（意見の概要は3ページへ）



やんばる地域の国立公園に関する検討の状況



また、1月17日(木)に「第2回やんばる地域の国立公園に関する検討会」(座長：桜井国俊沖縄大学学長。以下、検討会)、2月14日(木)に第3回検討会を開催しました。

第3回検討会では、環境省より、第2回検討会および座談会での意見を踏まえて作成した基本的な考え方(案)について説明を行い意見交換を行いました。委員からは以下のような意見が出されました。



検討会の様子(第2回)

- ・やんばる地域の国立公園のイメージが不明瞭。厳正な保護地区の利活用はイメージできるが、周辺地域の利活用はイメージしにくい。農業、林業、観光業従事者がどのように関わるのか、具体的なイメージの共有化が必要。
- ・やんばるの自然を保全すると同時に利活用し地域を潤すような計画を考えなければ、地域住民の国立公園受け入れは容易ではない。林業に代わる産業を生み出す必要がある。
- ・やんばる地域の国立公園のイメージは、自分たち(地域住民)が自然豊かなやんばるの森を守り、有効に利活用しているという誇りを持ち得る国立公園ではないか。
- ・生物多様性を実感できる国立公園を目指す場合、その生物多様性の解明について、研究者のみならず、地域住民も一緒に解明プロセスに参画できる仕組みが必要。
- ・生物多様性等に関する最新の知見をエコツアールガイド等に提供するとともに、地域の文化と暮らしについてもインナープリゼーションできるようにすることが重要。
- ・今後は、地域住民から自発的な意見が生まれるような環境省と地域住民の協働作業(国立公園のイメージの共有)が必要。

今後、環境省では、検討会および座談会での意見を踏まえながら、基本的な考え方をとりまとめ、公表する予定です。

座談会での意見の概要

管理運営・地域振興について

- ・「持続的な資源の活用」「地域振興」「開発や産業の見直し」の具体的なイメージを示すべき。本当に地域の人間と関係しながら進められるのか疑問。
- ・林業への具体的な影響を示すべき。林業に代わる「マンガース捕獲事業」などの代替案が必要。具体的なイメージがないと林業従事者の事業転換は難しい。
- ・国立公園のガイドとして成立するほど需要があるのか。また、林道、歩道の草刈り作業は大変な労力と予想される。
- ・地域住民の誇りとなる国立公園を目指してほしい。
- ・利用者の増加により、やんばるの自然が荒廃するおそれがある。
- ・管理運営・地域振興等のためにある程度の予算が必要。自然再生にかかる予算を望む。
- ・国立公園は、国が設定するルールの中で、行政と地元関係者が連携して活動できることが魅力。

指定プロセス・説明会について

- ・地域住民がないがしろにされている印象を受ける。やんばるでは今までの国立公園指定とは異なる指定プロセスが必要。
- ・沖縄海岸国立公園指定の際、ある地主の意志が尊重されなかった経緯がある。地域の意志を尊重することが重要。
- ・やんばるの自然価値について、地域住民すべてが理解しているわけではない。まず、その価値について説明する必要がある。地域住民の環境に関する意識のレベルアップを図る必要がある。
- ・地域へ(専門家による)科学的データ、科学的調査のノウハウをフィードバックしてほしい。地域住民と専門家による合同の環境モニタリング調査の実施などを望む。
- ・県民は、国に対する不信感がある。国立公園ありきではなく、国立公園に指定した場合と、しなかった場合の将来イメージを示し、地域住民の不安を取り除く対応を望む。
- ・国立公園指定の根拠を明確に示すとともに、指定後の管理運営もしっかり示すことが必要。

基地問題について

- ・北部演習場は、地域住民にも野生生物にも影響がある。指定の際に、北部演習場の是非について働きかけてほしい。
- ・上空で米軍機が飛べない規制をかけてほしい。やんばるでは他の国立公園にない指定、規制方法(法改正)があるべきではないか。
- ・戦闘機が墜落して、やんばるの森が延焼することも考えられる。ポーランドでは、自国の戦闘機でも飛べないエリアがある。ゾーニングは、そのようなことも想定して設定すべき。

海岸域について

- ・沖縄海岸国立公園を国立公園として編入してほしい。
- ・やんばる地域は森だけではない。海も大切に考えてほしい。

その他

- ・ごみの不法投棄問題も考えてほしい。
- ・国立公園指定の早期実現を望む。
- ・国立公園化のデメリットも明確に示すべき。
- ・地域、関係団体との調整には、中立(当事者以外)の立場が必要。